

第10回 各務原市役所学校建替基本方針策定委員会 議事録

日 時 令和6年2月16日(金) 13時30分～15時50分
 場 所 産業文化センター7階 第1会議室
 出席委員 鈴木賢一委員長、服部吉彦副委員長、福島茂委員、
 奥村美樹恵委員、佐藤幹彦委員、篠田勲委員、熊崎健二委員、
 阿部雄介委員、杉山幹治委員、尾関加奈子委員
 議 題 議題1 地域開放・複合化について
 議題2 エコスクール・環境配慮、景観・デザインについて
 議題3 学校建替事業について(中長期の視点)

議事録

1. 開会宣言
2. 議題

議題1 地域開放・複合化について

委員長	<p>本日は、全員の出席により本委員会は成立している。</p> <p>個別の話は今回で最後となり、今後は骨子案を作成し、パブリックコメントを行っていくことを予定している。</p> <p>まずは、地域開放・複合化について事務局からの説明をお願いします。</p>
事務局	(地域開放・複合化について資料説明)
委員長	まずは地域開放とコミュニティ・スクールについて意見を伺いたい。
委員	<p>委員長からまずは地域開放とコミュニティ・スクールについてとあったが、平成14年3月に文科省・国交省・厚労省により作成された「地域参加による学校づくりのすすめ」では、学校が地域の拠点となり、地域全体が学習環境であるということが示されている。その時の学校のかたちとしては、1. 施設開放型 2. 施設複合型 3. 地域連携型の3つが挙げられている。1. 施設開放型については、グラウンド、体育館、調理室や図書室と言った特別教室を地域に開放するというもの。2. 施設複合型については、立地にもよるが、学校の近くに保育園、公園、福祉施設があれば一つの施設に複合化するというもの。3. 地域連携型については、田植えや見守り隊など、各務原市でも実施されているコミュニティ・スクールが先導する活動のように、地域と学校が連携して運営するというもの。基本的な考え方を地域開放、施設の複合、地域連携という3つの枠組みにしてはどうか。この3つに区分すればコミュニティ・スクールの内容も含まれてくると思う。地域が学校と連携・協働して行う「地域学校協働活動」に関しては、社会教育法や地方教育行政の組織及び運営に関する法律の条文</p>

	にも明記されていることも補足として情報共有させていただく。
委員長	<p>地域開放と複合化を分けて考える予定でいたが、コミュニティ・スクールも含め、一緒に考えた方がよいかもしれない。</p> <p>既に各中学校区で行っている中で、課題があるかもしれない。学校の先生方で現在の取組の中で課題等はあるか。</p>
委員	<p>コミュニティ・スクールに関連して、中学校では、職場体験を復活させようとしており、職場体験のコーディネートコミュニティ・スクール（学校運営協議会）に行っているところである。</p> <p>ただ、やはり地域にとっては中学校よりも小学校の方が、より身近に感じられると思う。また、中学校を地域開放した場合に、誰が使うのかという疑問も残る。公共施設との一体的な整備と地域を巻き込んだ空間づくりでは、求められる条件が異なってくると思う。例えば、蘇原中学校は蘇原第一小学校の校区内にあるため、蘇原第一小学校区の人には利用しやすいが、蘇原第二小学校区やそれ以外の人には利用しにくいと思う。逆に 100 人、200 人といった規模で来られても学校としては対応できない。</p>
委員	<p>他自治体のコミュニティ・スクールはいくつか見て回ったことがあり、小学校は小学校、中学校は中学校で作っているところが多い。また、支援委員会のような組織をコミュニティ・スクールの中に作っている事例もある。</p> <p>話は変わるが、思いやり、コミュニケーション能力といった非認知能力に関して、体験活動（自然体験、文化的体験、社会体験）の経験は、精神的回復力、がまん強さ、精神的健康などにプラスの効果があるという調査がある。各務原市においても地域と関わるきっかけづくりを実施していくことは大切であり、小学校区単位、中学校区単位でできることを考えていくことは必要だと思う。下呂市の事例にはなるが、職場体験において小学校では子どもたちが地域を回って調べ学習を行い、中学校では職場体験を行うことで地域や仕事への理解を深めている。職場体験の日程調整は、学校の先生だけではなく、コミュニティ・スクールのメンバーがサポートしている。</p>
委員長	<p>先ほどの委員からのお話しは、コミュニティの単位は小学校であり、中学校では地域とのかかわり方における考え方が異なるという話だった。他自治体の中には、小中一貫教育を念頭に置きながら中学校をコミュニティ・スクールの核としようとしているところもある。</p> <p>近年では全国的に公共施設自体をコンパクトにしようという動きがよく見られる中で、場合によっては、教育施設の中に公共施設を取り入れることも考えられる。このような視点でご意見があれば伺いたい。</p>

委員	<p>地域開放や複合化といった視点では、中学校はそれほどポピュラーではない気がする。小学校と幼稚園を合わせる事例はよくある。地域で学校づくりを地域で展開していきたいとするなかで、小学生を巻き込むという形では、コミュニティセンターと一緒にするという考え方はある。</p> <p>基本的な考え方を見た時に、複合化による優位点は示されているが、ビジョンが見えてこない。各務原として地域に学校をどのように位置づけていくのか、どのような施設との組み合わせの相性が良いのかを具体的に考えていく必要がある。事例を見ると東京や京都など大都市圏で土地の値段が高い場所では有効的な方法だが、各務原の場合で考えると少し異なってくると思う。今あるものをベースにししながら、地域は何を求めているのかというところから考えていく必要がある。</p> <p>どんな空間があればコミュニティ・スクールの運営がしやすくなるのかというところを詰めていく必要もある。</p> <p>川島小中学校とライフデザインセンターを一緒にしている経験から、どんな良いところや課題があるのか、考えてもよいと思う。</p> <p>人口が減っていく中で、規模が小さい小学校でも存続させていくなれば、空き教室をどのように展開していくのか等、戦略的な議論をしていくべきと考える。</p>
委員長	<p>放課後児童クラブのような親和性の高いものについては、導入できると思うが、事例にあるような商業施設との複合化は難しいところである。しかし、できないことはないということが分かった。</p> <p>教育委員会だけで考えていくのは難しいところである。他市で生涯学習施設と福祉施設を動かそうという話はあるものの、とても時間が掛かっているということを知った。無理のない複合のあり方、地域との関係性を考えていきたい。地域の人々が自由に出入りできるような教室が1室あっても良いと思う。</p>
委員	<p>鵜沼中学校区コミュニティ・スクールの立ち上げから関わっているが、現場からの意見としては、各務原市のコミュニティ・スクールは機能している部分とそうでない部分があると感じる。役員会を毎月日曜日に行っているが、学校は空いていないため、別の施設の会議室を借りている。この会議を学校でできたらもっと地域が学校に入り込めると思う。コミュニティ・スクールのメンバーはベストを着て活動しているが、まだまだ地域や学校への認知が十分には進んでいない現状もある。PTAの方から学校に入り込めるように積極的にアクションを起こしているが、入り込んでいく仕組みを作っていないと難しいと実感している。</p> <p>同中学校区の小学校3校の5・6年生と中学生1年生を対象としたドッジ</p>

	<p>ボール大会を企画したが、駐車場はなく、会場となった小学校の隣の施設にお願いして止めさせていただいた。地域が使う難しさをハード、ソフト双方から感じている。</p> <p>地域開放について、震災後に石川県・富山県の PTA と意見交換をしたが、海沿いの地域では、大きな警報が流れた。大慌てで逃げ込んだが、学校が空く前に鍵が開いておらず、鍵を持っている先生や行政職員が到着する前に地域の人々が殺到したことで、窓ガラスを割って入るような光景が見られた。有事を想定し、校門の鍵を学校の近くの人に預けている他市の事例も聞いたことがある。また、石川県では、学校が避難所になったことで、授業ができないケースが見られる。隣の学校で授業を受けられるものの、送迎ができなければできない。非常時にはそういった対応になるところではあるが、課題になっているということもこの場で情報共有させていただく。</p>
委員長	<p>地域開放も主体は先生となっているが、先生、地域で共有する認識になれば良いと思う。</p> <p>地域開放は先生にとって重荷になるところである。先生の管理・運営の負担を減らすためにもどのような体制で行うのか、明確にしておく必要がある。</p>
委員	<p>各務原市でも、以前は近くの家に鍵ボックスを設置していただいていた学校もあったため、地域に非常時の鍵の管理をお願いすることは珍しいことではなかった。AED も屋外に設置しているといたずらのリスクがあるため屋内に設置しており、緊急を要する有事の際は、窓等を割って入って、使って頂くことになると思う。</p> <p>市内では、令和 8 年から部活動が地域に移行することになるため、誰が鍵の管理をするのかという課題が残っている。学校施設ではなく、市民体育館を使うことも考えられるが、学校施設を使う場合には、クラブの代表に鍵を渡す必要があると考えており、渡さないと部活動自体が成り立たないと考えている。現に部活指導員は準公務員扱いであるため、体育館など部活に必要な教室には入れるように鍵を持っている。地域開放だけでなく、部活動指導という観点から、鍵の管理は今後広がっていくと考えている。今後はセキュリティ面とのすみ分けが重要課題となると思う。</p> <p>先ほど委員が仰ったように、学校としても地域の方が学校で会議をしたり、お茶会をするような使い方をして欲しいと考えている。先日もシルバー人材の方が来た時に使える教室がなく、外でご飯を食べられていた。少し休んでいただけるような場所があるだけでもだいぶ違うと思う。</p>
委員	<p>いわゆるコミュニティルームだと思う。コミュニティルームの鍵は地域の</p>

	<p>方も持っていて、部屋自体には入れるが、そこから先の廊下や教室には施錠されていて入れないようなつくりになっているところもある。また、美術室や調理室は地域の方が良く使うこともあるため、区画されて開放されている学校もある。学校で鍵を借りる際に担当者が顔を見られるようなつくりだとよい。</p> <p>いくつかの事例を紹介していただき、コンセプトとしては良いと思うが、実際に維持管理している人たちはどう思っているのか知りたい。</p>
委員長	<p>ご紹介いただいた東京での事例で、導入した当初は、セキュリティが大変という話をよく聞いた。施設が複合化し、いい面を出していく必要があるのに、トップダウンで統合されてしまったという認識として地域に捉えられてしまうと良くない。地域の方々と一緒につくっていく参加型の体制を作ってもらえれば、開放教室の形や管理面において踏み込んだ議論が進むと思う。地域に維持管理の一部を委ねるなど、管理体制も含めた議論ができると良いと思う。</p> <p>これ以上はまとまらないと思うが、論点は見えたと思う。もう一度基本的な考え方で作戦的な考えが見えてくると議論が進むと思う。</p>
委員	<p>良い事例があるとヒントになると思う。市民が教育に関わっていくようなビジョンがあり、それを実現するハードと体制があればまとまってくると考えている。</p>

議題2 エコスクール・環境配慮、景観・デザインについて

委員長	エコスクール・環境配慮、景観・デザインについて説明をお願いしたい。
事務局	(エコスクール・環境配慮について資料説明)
委員長	エコスクール・環境配慮ということではいかがか。
委員	<p>エコスクール・環境配慮は当然大切で子供たちにも瑞浪市のような学校で学んでもらいたいと思っている。しかし、まずは子供たちの大切な命を守るという観点で構造的な強度が大切だと思っている。能登半島の地震では、免震構造の病院は被害を受けず運営できているが、耐震構造の病院では、倒壊まではいかないが設備が破損し、運営できないような状況になっていることを聞いた。</p>
委員長	環境配慮について反対する意見はないと思うが、安全性を考慮した構造については議論が必要になると思う。
委員	<p>環境配慮については概ね賛成である。ZEBとCASBEEはどのような対応関係になっているのか。エコスクールの実現にあたっては、どのあたりを目標にするのか、何を達成すればエコスクールと言えるのか、ZEBのランク、CASBEEの考え方について決めていく必要があると思うが、考えがあ</p>

	れば教えていただきたい。
事務局	ZEB は省エネ、創エネに関する評価である一方、CASBEE は、エネルギー指標と室内環境やサービス性能といった非エネルギー指標の総合的な評価である。
委員	エコスクールの概念の時に両方の視点で目標を目指したらよいかという認識で良いか。
事務局	最終的な設定については、岐阜県では明確な CASBEE の基準がないこともあり、現時点では見えていない。ZEB のランクについては、どこを目指すということは現時点では決められないが、施設としては維持管理をしやすくすることも必要である。維持管理とコストのバランスが重要だと考えている。
委員長	ZEB をクリアすることを条件にすると難しい設計になるが、方向としては示していきたいと思う。 現実として、設備を入れたものの、使い方が分からないといったことや設備がある理由が分からないといったこともある。使い手が使いきれぬかが一番の課題だと思っている。 木造化もどこまで木造とするのか。純木造化とすると材料調達ができない可能性もあるため、森林組合等と事前に話をしておく必要があると思う。
委員	木質化すると費用は抑えられるのか。
委員長	費用面での大きな差はないと認識している。
委員	補助金の面が大きく、エコスクールプラスに認定されると補助を受けることができる。
委員長	県産材の利用でも補助を受けることができる。
事務局	計画時期によって補助メニューは変わってくるため、その都度吟味して計画していきたい。
委員長	設備があってもアクションが伴わなければ意味がない。太陽光発電の設備も一度使ってそれっきりということも考えられ、教育のアクションと一緒に進めていく必要がある。
事務局	(景観・デザインについて資料説明)
委員長	景観・デザインについて意見がありましたらお願いしたい。 事例にある亀山市の関宿では、景観計画策定と公共施設の建替え時期が重なったため、景観計画をリードしていくためにも景観に合った施設がつけられた。やはり公共施設としては、景観計画をリードしていくのが大切だと思う。
委員	公共施設は色彩ガイドラインを遵守するものなのか、目指すものなのか。一般住宅とどう違うのか。

事務局	公共施設は、重点風景地区ではその地区の基準を遵守することになり、それ以外の地域では景観計画を遵守することになる。一般住宅は、重点風景地区においては地区の基準を遵守、その他の地区については長期優良住宅の認定に必要な基準として色彩について定めている。
委員	一定規模の建物には景観審議会などに諮ることになる。やはり、公共建築は景観計画等がある場合は守るべきところだと思う。
事務局	各務原市の庁舎については、景観アドバイザーの先生に見ていただいている。
委員	景観デザインの基本的な考え方は良いと思うし、学びの場として相応しい景観デザインとすればよい。加えるとするならば、卒業生が地域に居るため、卒業生が大切にしているものを継承していくことも必要だと考える。高度経済成長期に建てられた四角い建物自体には、建築的な価値はないかもしれないが、地域の人大切にしているものを継承できるようにすることも大切である。
委員	木がたくさんあり、地域が残してほしいという思いを持っていることは事実で、地域の方がおられるという認識は大切だと思いながら聞いていた。学校で働く立場としては、やはり維持管理面が気になる。事例のような屋根も可愛いとは思いますが、特別な形になればなるほど雨漏りや特別な修繕が必要になる可能性がある。教員が入れ替わると、管理や仕組みを引き継いでいくことは難しいと感じた。小学生は掃除を上手くできないところもある。素敵な環境で教育を受けさせたいと思う一方で、維持管理するにはシンプルなものもありえるのではないかと思った。
委員	同じことを考えていた。景観計画を遵守することや、学びの場としてふさわしい学校施設の景観・デザインをすることについては大賛成で、子供たちにも良いと思う。しかし、中学校でも窓を掃除したいと思っているが、教員は忙しく、安全上、子供たちにも高いところに登って掃除させる訳にもいかない。緑化について議論した際も、適切な樹木の維持管理と記載があったが、今回のデザインの観点でも気になる。学校における掃除の文化が今後どうなるか分からないが、他市の学校では、廊下は掃除ロボットが行っているところもある。景観デザインについては、維持管理と一体的に考えていくものだと思認識していただきたい。
委員長	維持管理の面は学校施設が一番弱いところだと思う。予算を付けて基本的な維持管理を行うのは行政の方でしっかりやっていく必要がある。先ほど委員が仰ったように歴史の継承の観点も地域に相談しながらすることで、大きなトラブルを避けられる場合がある。

議題3 学校建替事業について（中長期の視点）

委員長	学校建替事業について説明頂きたい。
事務局	（学校建替事業について資料説明）
委員	これまでは「建て替えるなら」という話をしてきたが、実際の話はどこまで進んでいるのか。1校あたり、4年掛けて建替えていったとしても、25校あれば100年掛かることになる。どれくらいの費用が掛かるのか、誰がどのように進めていくのか分かる範囲で教えていただきたい。
事務局	長寿命化を図っても市全体として約380億円の財源不足の試算があるため、単純に現在の学校数を維持していくことは現実的ではないという考え方もある。児童生徒数も減ってきているため、将来的には統合を含めた検討が必要になってくる場面がでてくる可能性もある。具体的な話になると適正規模・適正配置を踏まえてとなるが、今後の児童生徒数の減少に応じて計画を見直していくことになる。現時点では、市として具体的にどこを何番目に建て替える、といった計画は持っていない。
委員長	いくつかの意見が出たため、事務局の方でまとめていただきたい。 次回は学校建替基本方針の運用とこれまで積み残してきた課題を議論していきたい。本日の会議は以上とする。

4. 今後のスケジュール（予定）

次回は、令和6年4月26日（金）13:30～を予定している。